

H26.1.24

医師（こども心療内科）の医学的見解

環境アセスメント手続と事業概要等を説明後、以下について発言があった。

- ◆ 日照不足による精神疾患としては、季節性（の）うつ病がある。しかし、日本国内においては、季節性うつ病の患者さんは多くないのが現状である。
- ◆ 日本では、うつ病発症率が緯度に比例して多くなるわけではない。
- ◆ 北欧では、日照時間が短くなる冬に、季節性のうつ病が増えるということが言われている。
- ◆ 季節性うつ病の治療方法として、2,500～10,000ルクスの光をあてる治療法があり、5,000ルクス程度の明るさが確保されるのであれば問題ないものと考えられる。2,000ルクス以下の弱い光であれば、季節性のうつ病の発症のリスクが高くなるのかもしれない。
- ◆ 圧迫感や閉塞感は、感覚的なものであり、窓の風景そのものが精神的疾患を引き起こすとは考えられない。
- ◆ 今回の相談の件で、精神的な疾患を患うとは想定しづらい。